

生産性向上支援訓練カリキュラム

B. 組織マネジメント		安全衛生に関する知識を学び、自社の安全衛生活動を活性化しよう！	
リスクマネジメント		事故をなくす安全衛生活動	
コースのねらい	職場の安全衛生の改善をめざして、安全衛生の要点や企業における安全衛生活動、リスクを低減するための点検手法についての知識を習得する。		
対象	(初任・中堅層向け) ・安全対策について学びたい方 ・自社で安全対策を担当する方		
講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
	1 安全衛生概論	(0) 本コースの狙い確認 ・受講者が、これまで体験したミスや事故の経験を基に、危険の未然防止方法を理解・体験し、自社内の事故発生の未然予防活動を推進する基礎を修得してもらう (1) 安全衛生活動の意義とは ・企業・職場が不安全・不衛生であるとの様な問題が起き、どのような社会的評価を受けるかを説明し、安全および衛生の必要性・重要性を理解する (2) 安全衛生関係法令とは ・基礎知識として、安全衛生の国際規格および労働安全衛生法の概要を知る (3) 災害発生のメカニズムを知る ・労働災害がどんな時・どんな職場・どんな年齢層で発生しやすいかデータを示し、現状と発生メカニズムを理解する ・ヒューマンエラーは、人の判断プロセスである脳内での3つの各ステップでのエラー原因により、錯覚、思い込み、甘えなどから起こることを理解し、その対策は発生原因により違ってくることを理解する (4) 有害物質とエネルギー等による職業性疾病 ・有害な化学物質やエネルギー(温度・気圧・振動など)が身体に及ぼす影響およびそれらに起因する疾病について知る	1.5
	2 企業における安全衛生活動	(1) 危険予知活動(KYK)とヒヤリハットの概要 ・危険予知活動の進め方と職場のヒヤリ・ハットの放置による大災害との繋がりを理解し、演習で危険因子抽出と対策までの考え方を体験・習得する (2) メンタルヘルスとストレスチェックの概要 ・従業員に対するメンタルヘルスの重要性とストレスチェックの方法および管理者や同僚の役割・対応について認識する (3) 安全衛生パトロールの実施 ・安全衛生パトロールの意義と構成要員について説明し、どのような頻度・視点で実施すれば良いか認識する ・5Sや安全の評価基準を用いて、現場をレベル評価し、低評価事項に対する指摘点の抽出・対策によりレベル向上を繰り返す組織的継続活動のやり方を学ぶ (4) 安全人間作りとは ・組織内での安全を推進する人を教育、継続していく仕組みや事例を知る 【演習1】危険予知やヒヤリハット演習 ・現場写真やイラストを元に危険を予測して安全を確保するための未然防止の考え方と実施方法のキーポイントを修得する	2.5
	3 点検による管理	(1) リスクアセスメントの重要性 ・リスクアセスメントとは何かを説明し、リスクを事前に抽出、発生を防止する未然防止の考え方を習得する (2) リスクレベルに応じた点検 ・リスクアセスメントによりリスク発生の可能性および重大性を調査し、その結果に対応した点検の実施方法を知る (3) リスクアセスメントの実施ポイント ・職場の安全衛生チェックリストに盛り込む事項(建物・設備・レイアウト・作業など)とチェックすべき項目や頻度等のポイントを知る 【演習2】5S&安全の評価演習 ・5Sや安全レベルを自分達で作成した評価表を元に従業員が継続する活動のやり方を学ぶ	2.0
		合計時間	6.0

カリキュラム作成のポイント

- ◆本研修は、多業界の方々ご理解しやすく、実践的な内容を以下の点に重点を置いて構成しました
 - ・共通テーマの活用: 家庭や通勤など日常生活に基づいた演習で、多様な業界の参加者が共感しやすい内容を設定
 - ・目的共有と達成感の向上: 研修の狙いや目的を最初に確認し、参加者に「得たいこと」を発表してもらい、終了時に成果を共有して意欲を高める構成
 - ・ヒューマンエラーの理解: 災害発生のメカニズムを脳内情報処理プロセスを通じて学び、不安全行動の要因と対策を明確化
 - ・組織的安全活動の促進: 5Sや安全パトロールが定着するよう、評価基準を活用した組織活動の継続方法を学ぶ
 - ・リスクアセスメントの実践: 不具合を達成レベル評価で分析し、優先順位をつけて対策を行い、その効果を理解
 - ・体験重視の学習: 座学で学んだ知識を演習で確認し、内容を実践的に定着

備考